

文献紹介

「ロボットと法」シリーズの論文紹介(2)

「ロボットと刑法」研究会・石井徹哉編

論文紹介にあたって(石井徹哉)

1. エリック・ヒルゲンドルフ「ロボットは有責に行為することができるか?—規範的な基本語彙の機械への転用可能性について—」(伊藤嘉亮)
2. エリック・ヒルゲンドルフ「法と自立型機械—問題概説」(富川正満)
3. ヤン・C・イェルデン「ロボット工学の刑法的観点」(今井康介)(以上、31巻2号)
4. スザンネ・ベック「グーグル・カー、ソフトウェアエージェント、自律的武器システム—刑法にとっての新たな挑戦?」(根津洗希)
5. デトレフ・シュテルンベルク-リーベン「『人間の機械化』の刑法的禁止—序論的考察」(田村翔)
6. リザ・ブレフシュミット「医師の治療行為の枠内における医療技術の投入を例とした民法および刑法における過失の基準」(山下裕樹)
7. ザビーネ・グレス=トーマス・ヴァイгент「インテリジェント・エージェントと刑法」(伊藤嘉亮)
8. スザンネ・ベック「インテリジェント・エージェントと刑法—過失、答責分配、電子の人格」(根津洗希)
9. サシャ・ツィーマン「機械の本性とは何であったか? 機械刑法をめぐる議論について」(田村翔)(以上、本号)